

アメリカ ミネソタ州 ミシシッピ川橋梁崩落事故について

2007年8月1日、ミネソタ州ミネアポリスで、ミシシッピ川に架かり、州間幹線道路の通る、築40年、全長581m、通行量1日14万台、三角形に鉄骨を組んだトラス構造の鉄橋が、一瞬にして崩壊した。60台余の車両が転落、死者は13人、負傷者は100人を超えた。崩壊の衝撃的場面はテレビで流されて全米の国民の恐怖感をかき立て、遠回りしても橋を避けようとする人たちが急増。「橋恐怖症」(bridge-phobia)という新語まで生まれた。この橋は2020年に架け替える予定で、過去の検査では、構造的な問題はあるが、直ちに危険があるわけではないとされていた。点検のずさんさと、維持・修復のための措置が予算で後回しにされてきたことが、この大事故につながったと考えられる。構造に問題ありとされたり、機能の旧式化を指摘された橋は、全米のおよそ4分の1に上るといわれる。

崩落した橋は、1955年から毎年点検を実施。直近では2006年6月に点検。
状態分離；ミネソタ州 橋梁点検報告書 NBI評価（2006年6月15日）

部位	状態ランク（0～9の段階評価）
床板	5（主要部材は健全であるが、小さな断面欠損等の軽微な劣化はみられる。）
上部構造	4（断面欠損、ひび割れ等の劣化が進行している。）
下部構造	6（多少の劣化は見られるが、早急な補修は必要ない。）
流水部	7（侵食や先掘等の顕著な劣化は見られない。）

- 4→構造的欠陥あり（不十分な状態）
- 5→機能性に劣る（まあまあな状態）
- 6→機能性に劣る（満足のいく状態）
- 7→機能性に劣る（良好）

橋梁全体の評価→構造欠陥あり。

ミネソタ州交通局の疲労評価報告書（2001年10月）

ミネソタ大学に委託した検討結果では、通常の荷重のもとでは疲労クラックが発生する可能性は低い。
（クラック→壁や岩壁などの、裂け目や狭い割れ目）

平成19年8月1日に発生したアメリカ合衆国ミネソタ州のミシシッピ川に架かるミネアポリス橋の崩落事故を受け、八王子市が管理する橋梁の安全確認のため緊急調査を実施した。

対象→橋長5m以上、築造後30年以上の95橋。

調査方法→橋梁全体の外観、橋台や橋桁のひび割れ、欠損、橋台下部の洗掘及び高欄の損傷等の有無について、道路事業部の技術職員が目視による調査を実施した。

結果→市内には、著しく損傷があり安全な通行が確保出来ない危険な橋は無かった。

このように日本に与える影響も大きかった。